

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年7月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社 あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい
所在地 (電話番号)	福岡市早良区西入部2-7-20 (電話) 092-803-0381
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年5月15日

【情報提供票より】(平成20年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	5人, 非常勤 14人, 常勤換算 14.7人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 / 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	20,460 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,155 円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大賀内科循環器科医院、川浪医院、油山病院、小田耕平歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、10年余りの海外生活を送られ、福祉に対して熱い想いがあり、帰国後身内に認知症の介護が必要になったことをきっかけに事業所を立ち上げる。事業所は自然豊かな室見川沿いに面し、敷地内は四季折々の花々や野菜が利用者・職員の手で育てられている。事業所の自慢として、利用者の食材は無農薬野菜を使用し、化学調味料を一切使用しない食事を提供し、利用者の健康を第一に考えていることである。職員は利用者の生活歴を大切に、表情豊かにゆったりと暮していくことを支援している。その一つが寝たきりの利用者へ、自然とのふれあいや感動が少なくなるとの思いから、職員は近所よりリヤカーを譲って頂き、そのリヤカーを職員の手で改装。リヤカーの中から手を伸ばせば、季節の花々に触れるよう、利用者の視点に立った介護が行なわれ、職員が利用者一人ひとりを大切に支援が実践されており、今後更なる発展が期待される事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、全て取り組み改善されており、わずか1年間で素晴らしい成果をあげられている。今後の発展を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目は管理者、職員全員で検討し取り組まれている。また、改善点についても管理者、職員と共に改善に向けて取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族代表、民生委員、包括支援センター、行政、職員以外に有職者として大学教授の参加や訪問看護ステーション担当看護師などの参加を得て意見交換を行い、意見に基づきターミナルケアについての講習会や口腔ケア、介護に関する講習会を開催するなど、サービスの質の向上や職員のスキルアップに繋いでいる。また市町村との連携は利用者についての相談に行ったりして連携は取れている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会は家族同士で行なわれているが、家族の意見は代表者から伝えられ、何でも言ってもらえる雰囲気作りで留意している。出された意見等は検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会に入会しており、清掃作業などの地域活動に参加したり、地域の夏祭り「地蔵祭り」行事への参加や、事業所の敬老会や夏祭り等の行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど地域との交流を積極的に行なっている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を1・2階に掲げており、地域との関係性も出来ているが、理念の中に地域との関係性が謳われていない。	○	理念の中に「地域の中でその人らしく安心して生活する」地域密着型サービスの理念を掲げる事が望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕各階で唱和を行い、一人ひとりの生活歴や習慣を大切に、日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自治会に加入しており、地域の清掃活動や地域活動に参加したり、ホームの敬老会や夏祭り等の行事には地域住民の参加や協力を求める関係作りは出来ている。夏祭りは400人以上の参加者があり盛大に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組みサービスの質の向上に努めている。前回の外部評価における改善点は、ミーティングで具体案を検討し実践につなげている。特に地域の交流は、わずか1年間で大きな改善がみられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、民生委員、包括支援センター、行政、職員以外に有職者として大学教授の参加や訪問看護ステーション担当看護師などの参加協力で意見交換を行い、意見に基づきターミナルケアについての講習会や口腔ケア、介護に関する講習会を開催するなど、サービスの質の向上や職員スキルアップに繋いでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	身寄りのない方の死後の相談に行ったり、成年後見制度の取り組み等を聞いたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修は、勤務の関係上職員全員の参加は難しいが、その都度伝達研修を行なっている。また家族の方には入居時に説明をしたりパンフレットを渡している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回ホーム便り「あおい通信」を家族に郵送している。家族の面会時には、利用者の状況を報告したり家族の要望等聞いている。また、毎月個人別にケアプランの内容、健康状態、預かり金明細など家族が安心していただけるよう詳細に報告しており、家族の信頼を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は家族同士で行なわれている。家族の意見は代表者から伝えられ、何でも言っていただける雰囲気作りに留意している。出された意見等は検討しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前、終末期看取りへの不安から職員の離職者があったが、毎月外部から看護師等を招き勉強会を行なう事で職員も自信がついて、現在は離職者はいない。また家の都合等で離職する場合は1ヶ月前より、新職員と引継ぎを行なう事で利用者のダメージはなく、自然に関わりは出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	70歳代の職員もおり、性別で区別し排除する事はない。職員一人ひとりの能力を十分発揮していただいている。また休みの希望や、勤務交代は100%希望を聞き入れ、働きやすい環境作りを行なっており、利用者の関わりにマイナスにならないように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや態度に気をつけ「赤ちゃん言葉」は使わない等、日々の介護において職員間での啓発に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の関係上職員全員の研修参加は難しいが、出来るだけ若い職員の参加を行い伝達研修を行なっている。内部研修は職員会議の時、外部より講師を招き「ターミナルケア」「口腔ケア」「嚥下」等の勉強会を行ない、職員の知識や技術の向上と意識の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに加入している。近くに他事業所があり、お互いに職員と利用者を連れて遊びに行ったり、行事の時はお互いに参加したり交流の機会が多い。また、災害時の協力態勢も築かれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物の一部にデイサービスがあり、入居前にデイサービスを利用し、入居者と行き来することでその雰囲気になれるよう取り組みがなされている。また体験利用や見学等を行なって頂き馴染みの関係作りを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から「忙しいのにごめんね」との言葉に癒されたり、「あんた寒がる」「あんたにあげる」と何を見てもやさしく、思いやりの気持ちや、相手を気遣う気持ちを教わったりして、学び支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や過去の生活歴を基に、一人ひとりの暮らし方や思いの把握に努めている。把握が困難な場合は日々の生活に寄り添い、行動や表情から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や意向を面会時などに聞くと共に、職員同士が日々の気づきなどの意見交換を行ない、本人がより良く暮らせるよう利用者主体の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に職員全員で意見交換、モニタリングを行なって家族、本人の要望などを確認して見直しを行なっているが、状態変化が生じた場合には、必要に応じて家族、本人、職員からの情報を集めて現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への定期受診を家族が支援困難な場合に、要望に応じて職員が通院支援を行なっている。また、近隣の在宅高齢者を必要に応じて短期入所やデイサービス利用ができるよう申請書類を準備中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との提携医療機関への受診を希望する利用者もあるが、本人、家族が以前からのかかりつけ医を希望した場合は、そのかかりつけ医を受診できるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より看取りについての方針を家族と話し合い、方針を共有している。訪問看護ステーションとの医療連携のもとで開設以来3名の入居者の看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重した言葉かけや対応が行なわれており、記録や個人情報は所定の場所へ保管して漏洩防止に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間は一人ひとりの起床時間に合わせているため、早朝に摂る利用者や遅い時間に摂る利用者など、一人ひとりのペースを大切に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の切り込みなど調理前の下準備を利用者と職員と一緒に、同じ食事を職員も一緒に楽しく摂っている。また、時々爽やかな外気に触れながら園庭の常設テーブルで食事を摂る日もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後入浴支援しており、午前入浴も希望する方がいれば支援している。入浴を拒む場合は無理強いせず、タイミングを見計らって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機をかける、洗濯物をたたむ、お盆拭き、草取り、組みひも作りなど一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援ができています。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行できず外出支援が困難な入居者が戸外に出かけられるようにとの職員の強い思いから、近隣住民から譲り受けたリヤカーを改装して数人の利用者がゆったりとリヤカーにゆられて屋外散策を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を運営者、全ての職員が理解しており、日中玄関への施錠はしていない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年5月に日中の火災を想定した訓練を、12月には夜間を想定した避難訓練を実施しており、近くの介護施設や自治会へも災害時の協力を呼びかけている。また、緊急時の一時避難場所も職員が周知している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて刻み食などを支援しており、食事記録をとって量や栄養バランスの把握に努めている。水分も食事時間以外にも時間設定して水分補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(居間兼食堂)は広くゆったりと座れるソファが設置されていて利用者が自由にくつろいでいる。また、不快な音もなく、玄関や園庭には色とりどりの花が咲き乱れて季節感があふれ、居心地よく過ごせるように工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生花を活けたり、お仏壇を奉ってある部屋、家族写真が飾ってあるなど一人ひとりの好みや過去の生活歴に合わせて家具や調度品が置かれており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。</p>		